

令和6年度 学校評価書

1. 本年度の重点目標

- イ. 保護者教育及び親子ふれあいを深めるための事業の充実
- ロ. 心豊かに育む絵本の読み聞かせ、ごっこ遊び、リトミックの充実
- ハ. 在園児及び未就園児親子への子育て支援の充実

2. 自己評価結果及び学校関係者評価

* A（十分に成果があった）、B（成果があった）、C（少しの成果があった）、D（成果がなかった）

評価対象	評価項目	自己評価		学校関係者評価	
		評価点	園としての反省と改善策	評価点	意 見
A. 本年度の重点目標・活動	1.保護者教育及び親子ふれあいを深めるための事業の充実 2.心豊かに育む絵本の読み聞かせ・ごっこ遊び・リトミックの充実 3.在園児及び未就園児親子への子育て支援の充実	B	今年度も実施方法や内容を再検討し、親子でレクレーション、及び親子遠足を楽しんで頂けるよう考え、実施できたので、園児や保護者の方には楽しんで頂けた。絵本の読み聞かせやごっこ遊びは例年にプラスしてより子ども達がより楽しめるように内容を再検討し実践したので成果を感じた。リトミックに関しては、新たな取り組みをしたが、子ども達の反応も良く、成果を感じることができたので、次年度に活かしていきたいと思う	A	今年度も昨年度と同様に、落ち着いたスタートが切れたようで良かった。ただ、少子化等、子ども達の人数も減ってきており、行事等の内容や実施方法も再検討していく必要があるようなので、大変だと思うが、次年度も変わらず親子で楽しめる活動を実施して欲しいと思う
B. 保育の計画性	1.園の理念や教育方針について、園長や教職員と話し合っている 2.園の教育課程を理解し、子どもの実態・地域性を考慮し、保育計画を立てている 3.保育計画と実践の評価・反省を行い、次に活かせるように心掛けている	A	年度開始前、日々の職員会議等で話し合いの機会は多々設けた。教職員によって理解度に差がでないよう、適宜話し合いの場を設け、意思疎通を図るよう配慮したのでその成果を感じることができた。ただ、まだ保育計画への理解には個人差がみられるので、一人ひとりの教職員がしっかりと理解できるよう、今後も伝達・指導を徹底していきたい	A	教職員が園の理念や教育課程をしっかりと理解し、学年毎、又、園全体で理解を深めようとしていると感じるので、次年度も大切にしていって欲しい。又、それらが園への信頼にもつながると思うので、現在も職員会議等でしっかりと伝えているようだが、今後も共通理解をもって教育にあたれるよう、話し合いの場を設け、園の方針や理念についての相互理解を深めていって欲しいと思う
C. 研修と研究	1. 研修会や研究会に意欲的に参加している 2. 園内研修を積極的に行っている 3.教材・教具について知識を得たり、様々な活用方法を研究している 4.保育に必要な知識の獲得や、技能の習得を積極的に行っている	B	外部研修に関しては、リモート研修を含め、研修会に参加することができ、その成果を感じることができたが、昨年度に比べ、少し外部研修への参加の機会が減ったので、次年度は、計画を見直し、可能な限り、研修には積極的に参加し、資質向上に繋げていきたい 園内研修、知識・技能の習得に関しては、昨年以上に時間を割き、より丁寧に行うことができたので、その成果を感じることができた。次年度以降も引き続き積極的に行っていきたい	A	今年度も園外研修・園内研修共に、できるだけ参加・実施することを心掛けてきたようなので、引き続き、次年度も子ども達にその成果を還元できるよう取り組んでいって欲しいと思う。研修と重なる点もあるが、必要な知識の獲得や技能の習得も、可能な限り、園として取り組んで、教育活動に活かしていって欲しいと思う
D. 保育のあり方・子どもへの対応	1.一人ひとりの子どもとの関係がしっかりと築けている 2.一人ひとりの子どもの興味・関心事及び友達関係をしっかりと把握している	B	昨年度の反省を活かし、職員会議等で日々確認しながら行ってきたが、まだ子ども一人ひとりの関係、クラス作りにも個々で理解の差、意識の差がでてしまったので、教師によって極端な違いや差	A	温かくて嬉しい関わりを大切にという園の理念を教職員一人ひとりも大切にしてくれていると感じることができるので、これからも子どもの一人一人の思いをくみ取り、援助・指

	3.一人ひとりの子どもの発達についての理解が十分にできている 4.健康と安全についての配慮ができている		が出ないよう、個人的に具体的な指導を実施し、話し合いの場をできるだけ設けた。又、前年度同様、支援が必要な園児も増えてきているので、保護者対応も含め、しっかりと対応できるような体制作りを心掛けていきたい		導して行って欲しい。又、コロナ禍以降、健康や安全面への理解をより深め、実践しているとのことだったので、配慮しなければいけない点が多々あり大変だと思うが、引き続き大切にしていって欲しい
E. 保護者への対応	1.園や家庭での子どもの様子について、電話・連絡帳等でしっかりと伝え合っている 2.保護者からの相談・クレーム等を、園長、主任等に報告・相談し、対応している	B	今年度も、教職員に一人ひとりに丁寧かつ細やかに対応するよう指導・助言を心掛けているので、多くの場面でしっかりと伝達や対応ができていたが、不十分な面も見られるので、今後、言葉遣いや伝え方等の指導をより徹底していきたいと思う。	A	保護者からの質問や相談等、またその日にあった子どもの様子など、細かなことも毎日打ち合わせて共有されているとお聞きした。園全体で共通理解をもって対応できるよう、様々な取り組みをしているとのことだったので、これからもその姿勢を大切にしていって欲しいそして、次年度以降も報連相を徹底して欲しいと思う
F. 地域の幼児教育センターとしての役割	1.園に対する様々な問い合わせ等についてきちんと対応している 2.地域の人たちや未就園児に対して、園庭等を開放したり、子育て相談に応じている 3.子どもの教育のために利用したい地域の自然環境や施設、機関について理解している	B	園としては、共通理解を持ち、対応に差が出ないよう、職員会議等でしっかりと話し合いの場を設けている。ただ、まだ個々に対応の差があると感じる面もあるので、今後はそれぞれの教職員がしっかりと対応できるようにしていきたい。又、地域の園としての役割を果たしていけるよう、在園児だけでなく、未就園児、地域の方に対しても、できる限り開放的な園でありたい 昨年度の反省から、地域への理解は個々に差があったので、昨年度以上に年度開始前や職員会議、園外保育時に、教職員へ伝える機会を設けて活動したので、成果を感じることができた	A	保護者や他の問い合わせについては、担当の先生が中心に親切丁寧な対応を心掛けているとお聞きし、又、私達もそう感じるので、引き続き大切にしていって欲しい。未就園児教室への参加率は、少子化等の影響もあるせいかな、年々減少しているようなので、次年度は内容や実施方法を再検討し、多くの方に利用して頂けるよう工夫していって欲しい。地域への理解は、昨年度の反省を活かし、色々な場面で伝達したり、学ぶ機会を設け、その成果も感じることができたようなので、さらに教職員の理解が深まるよう話し合いの場を設けたり、直接訪問して理解が深まるよう心掛けて欲しい

3. 本年度の総合的な評価結果

当園も本年度より新制度幼稚園となり、分からないことだらけの新たなスタートとなったが、例年通りの教育活動を実践でき、その成果を感じることができた

4. 今後取り組むべき課題

多様なニーズに対応するためにも、園内外問わず研修に取り組み、教員の質の向上をより高めていく必要がある。

又、少子化等の影響もあり、園児獲得がより難しくなってきているが、経営の安定のためにも、様々な角度から

今後の園運営を再検討していく必要があり、新たな取り組みを模索・実践していきたいと思う